

aggressive

先般、aggressive tackle を「攻撃的」タックルと解釈することの是非について書きましたが、最近サッカーのW杯代表決定に際しての選手の決意表明の中にこの言葉がつかわれているのを聞いて、「aggressive」を概念としてではなく、明確に即ち具体的に理解してプレーに生かすことが大切で、激突に留まっては意味が無いと思いました。

ボールを持っている相手を捕まえるという行為は防御そのものですから、攻撃的というには、攻撃的である内容が問題です。ボールを持って走る攻撃と、ボールを持っている相手を捕まえるタックルは一對の基本的プレーで、プレーの流れの中で、攻撃から一転防御への空転と、防御から攻撃への好転も競技の興味の一つです。aggressive は流れの変転機における攻防の妙味を指摘する言葉です。

タックルがインターネット iRB ホームページのトータルラグビーでとりあげられています。今日改めて取り上げられる理由とそれだけの経緯があるのです。ゲームでの安全とプレーの継続促進が目的で、もう一つはラボラトリー活動が盛んになった結果で、取り上げるにあたって、温故知新 歴史から入った意図と熱意の現れでしょう。

ルールの歴史の原典 The History of the Laws で、タックルの条が最初にでてくるのは 1602 年です。

In 1602 one writer says "it was for bidden to but or hand fast under the girdle, "which in modern phraseology would undoubtedly be "to charge or collar below the whist." writer の記事が重要な部分を書き伝えてくれていることを記憶しておきましょう。

インターネット IRB ホームページに TORTAL RUGBY という大見出しのもとに、「A BRAVE NEW WORLD」と題してタックルをとりあげている中で、

Potted history of the Tackle Law という題が興味深いです。

potted 鉢植え荷されているので、分かり易いです。

potted history は 1866 から始まっています。

1866 年 最初に整理された年です。

1871,1905,1912,1937,1958,1985 年に順次とりあげられています。

2006 本年のものです。 2005 年の条文前条の次に加えられています。

`Naturally, the fate of the ball is paramount in the thinking of the lawmaker.'

`A tackled player must immediately pass the ball or release it. That player must also get up or move away from it at once.'

生来、ボールは生かされ続けられるべきであり、lawmaker もそれを至上のものと志向しているのです。(競技の基本理念であり競技者の基本精神)

immediately 他の事を一切することなく直ちにパスするか放さねばならない。

at once 時間的に直ちに立ち上がるか離れなければならない。

敢えて順番を言えば前者が先ということになりますが、両方間髪を入れずにする

Law's will という言葉に対し the thinking of the lawmaker は一段と明確でプレーの耳に入り易いことを狙っています。Law を守るとは、lawmaker と一緒になって、御互いの共通の考えのもとに競技を楽しむことです。LAW の意志・制定の意図を生かすということです。law の後ろに従うということでは不十分で、楽しんでいることにならないのです。

続いてタックルの型にも詳しく書かれていますが、law の変遷即ち考え方の変遷の中から aggressive tackle について考察をしましょう。

tackle タックルは言葉としては cease and stop 捕まえて止めるという意味です。競技語として、その目的を果たすための要素である技術の効用を高める要素は次のように分析されます。

tecnique 技術

タックル予想ポイントを読む、接近コースとスピードと角度判断

型として肩の当て方決定

バインドの仕方と頭の位置留意

power 強さの 3 段階

強く前へ (ボールを持っている相手を後方へ倒す)

相手後方

止まって (当たった位置で)

相手横

止まって捕まえたまま後ろへ

技術と強さは相互関係にあって、一方的にきめられるものではありません。

以上を決定するのは、相互の状況や平素の練習や経験がもとになり、flair 発想が生まれて判断から実行へと進むのです。判断実行の段階では無意識に近い瞬間のことで経験と身体づくりが要求されるわけです。

flair は攻撃の「芽を摘む」タックルに繋がっていきます。力の強さに関係なく相手の攻撃を早い時点で防ぐ防御です。

タックルのルールにルールの3つの意図が当然生かされています。研究実行にあたってそれを忘れないことが絶対条件です。繰り返しておきます。

1. 平等、公平に戦う。
2. オープン展開継続する。
3. 安全第一事故防止。

以上の学習をもとに aggressive tackle について言葉から考えましょう。

aggression は攻撃、攻勢、侵略という意味です。敵と戦う場合の攻撃は普通 attack が普通使われます。aggression は攻撃でも unprovoked attack 刺激されない、正当の理由のない攻撃ということで、aggressive は形容詞で次用法が辞書にでています。

apt to make ~ :

assume the aggressive : aggressive であることを見せかける

begin quarrel 喧嘩を始める

assume the offensive 攻勢にでる

タックルが単に激しいことを強調した言葉と短絡的に考えてはいけません。

相手を捕まえて止める行為に、ゲームの流れ以後の目的効用が攻撃敵であることを付加したタックルをいうのです。タックルは防御プレーです。防御を攻勢に転じる言い換えれば攻勢に繋がっていくタックルが aggressive tackle であることを認識して、激しくラグビーを楽しんでください。

aggressive であることが求められるのは防御側だけでなく、攻撃側にも当然もとめられます。一般的プレーに於いても、タックルされたプレイヤーについても味方を有利に導く aggressive play が常に求められているわけです。ボールを持って走っていると、相手が捕まえにきます。容易に捕まってははいけませんし、簡単に倒れてはいけません。インターネットの西川ラグビーコラムの「正しいタックルのチェックポイント」を研究資料としてご活用ください。

2006.07.23

西川 義行